

## 一第63編 一 手作りの先端的科学館

エクスポラトリウム (Exploratorium) とは、主として子供と家族向けのユニークな科学博物館である。名前は「探究する館」という意味の造語である。サンフランシスコ、パレス・オブ・ファイナート (美術宮殿) の港湾地区にある。私が1980年代に調査を目的に訪れた頃は、戦前に開催された博覧会のパビリオンを改造した倉庫のような建物にあった。当時から大変注目を集めた科学館だったが、現在ではサンフランシスコでは最も人気のある博物館の一つで、年間50万人以上の入館者があるという。

同館は1969年に物理学者で教育者でもあったフランク・オッペンハイマー<sup>\*3</sup>によって開設された。科学の面白さと不思議さを次代に伝え、探究に誘う、五感に訴えるアイデアを駆使して作られた。お目にかかった直後の1985年に亡くなるまで、同館の館長を勤められた。

このサイエンス・ミュージアムは、来館者が触れるハンズオン展示や、科学と芸術が融合した展示によって、知識偏重ではない体験を通じた理解を重視した最も初期の代表例である。壊れることも科



写真63-1 湾から見た現在のエクスポラトリウム外観  
by Amy Snyder ©Exploratorium



写真63-2 七色の動く等身大シルエット  
by Amy Snyder ©Exploratorium

学の一部であるとし、新たに開発された展示物が入口に無造作に置かれ、来館者との関係を観察する。そして、隣接する広大な工場のような工作場で、科学者とアーティストが共同しながら改善が重ねられる。そのプロセスが大切であり、可視化されるのだ。すなわち、同館の展示には科学者や教育者だけでなく、ビジュアルアーティスト、メディアアーティスト、パフォーマンスアーティストも加わって「アーティスト・イン・レジデンス<sup>\*4</sup>」と呼ばれる芸術家が半年以上滞在し、展示物

\*4 Artists in residence: アーティストを一定期間ある場所に招聘しそこに滞在しながら作品制作をさせるしくみ

を制作・発表する制度もある。こうした同館の姿勢は、開館以来一貫して掲げられてきた標語「科学、芸術、そして人間の知覚のミュージアム」に集約されている。

当時、おもちゃ箱をひっくり返したような広大なミュージアムをそれこそ貪るように体験しながら、アメリカという国の創造性の源泉に触れたように思われた。そして、目をさらさらと輝かせながら学生たちに説明を受ける子供たちの姿に、未来の可能性を感じたのであった。



写真63-3 マーブル・マシン by Gayle Laird ©Exploratorium



写真63-4 高速カメラによる水滴の落下  
by Erik Thogersen ©Exploratorium

\*1 Exploratorium

\*2 Palace of Fine Arts

\*3 Frank Oppenheimer (1912~1982)